

入選

おばあさんからの親切

千葉県 東部小学校 五年

柿沼 怜奈

私が低学年のころ、母と姉と3人で、船橋の歯医者に行った時のことでした。その日は、風がとても冷たく、手袋をしていなかったの、手がかじかんでしまうほどの気温でした。

夕方、歯の治療が終わり、3人で、バス停へ向かいました。バス停までのきよりはとても近く、歩いて5分ほどのきよりだけれど、その日は、バスがなかなか来なかったの、あまりの寒さで待っている時間がとても長く感じました。

私は、体力的に少しきつく感じ、疲れていました。早くバスに乗って、ゆっくり休みたいと思っていました。しばらくするとバスが到着し、ようやく暖かいバスに乗ることができました。

しかし、バスの中を見渡してみると、人が多く、席が空いていませんでした。母と姉と3人で立つて乗ることになりました。

すると、一番奥の席に座っていたメガネをかけたおばあさんが、

「私はもうすぐ降りるから、この席に座っていいよ。」

と言って、スッと立ち上がってくれました。

私は、ためらうことなく、席をゆずってもらうことにしました。5年生になった今、このバスの中のできごとを振り返ってみると、私が取った行動は本当に正しかったのか、と考えてしまいます。

「もしかしたら、バスの中には、私よりも席に座りたい人がいたかもしれない。」

「席をゆずってもらったあと、おばあさんにお礼の言葉を言っていなかったかもしれない。」

「そういえば、母は大きな声でお礼を言っていたけれど、私はおじぎだけだったかもしれない。」

次々に、いろいろな記憶や、気持ちが頭をよぎりました。もし、今後バスや電車の中で席をゆずってもらうことがあつら、まず最初に、大きな声で相手の目をしっかりと見て、「ありがとうございます」と伝えたいです。

そして、車内を見渡し、私より座席を必要としている人がほかにいないかを、しっかりと確認したいと思います。また、今後は私が席をゆずりたいと思います。

私は、これまで人に親切にしてもらったときは、何も考えずにその親切を受け取っていました。けれど、このバスの中のできごとを振り返り、感じたことがあります。それは、誰かに親切をもらったとき、その親切をほかにも必要としている人がいないかを考えていきたい、ということです。

親切にしてもらったときは、まず最初に、「ありがとう」のお礼の言葉を伝え、周りをしっかりと見ることのできる人になりたいと思います。

もらった親切を、ほかの人にもわかることのできる人になりたいです。